

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 25日
- 事業名 : 相談ボランティアの養成
- 資金分配団体 : 一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体 : 認定 NPO 法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
相談員養成講座の開催	年度当初の相談員数と比べて増えた人数	20名	2023年3月	2022年9月時点 9名	2
ゲートキーパー養成講座の開催	受講生の人数	2年目 1000人	2023年3月	2022年9月時点 150名	2
自死遺族わかりあいの会の開催	参加者の人数	年間で30人ずつ増やす(2023年3月時点で100人)	2023年3月	48人	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
相談員養成講座で応募者が多かったときは、2つに分けて講座を開講して一度に一か所に集まる人数を減らしました。

③ 広報 (※任意)

- 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)
 - ・8月29日(月)「news おかえり」朝日放送テレビ
youtu.be/h35rwU4K-yE
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価関連経費の算出、行政資料（ゲートキーパー認知度）の調査	安田 淳	広報委員長
内部	アンケートの作成・実施	北條 達人	理事長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
情報発信者	情報発信する回数・頻度	月 1 回	2024 年 3 月	ユースボランティア養成講座を受講して認定された相談員がテレビの取材に応じるなど自殺防止活動の情報発信の担い手としても活躍しています。
情報発信者の周囲の人	意識の変化	死にたい気持ちも話していいんだと思えている	2024 年 3 月	まだ情報発信者の周囲の人の意識の変化までは掴めておりません。
自死遺族わかちあいの会の参加者	専門機関・相談機関以外の人に話をする	専門機関・相談機関以外の人に話をする機会があったか	2024 年 3 月	若い方で、SNS で自分の思いを文字化して同じ立場の方と語り合ったという方がおられました。

自死遺族わかちあいの会の参加者	意識の変化	専門機関・相談機関以外の人に話をする時に安心感があったか	2024年3月	上記のケースでは、語り合うことで救われたとお感じになりました。ただ、相手が重い話だとしんどくもなるので、自分の気持ちの余裕があるときに使用しているそうです。
-----------------	-------	------------------------------	---------	--------------------------------------------------------------------------------



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	アウトプットを生む事業活動自体は計画通り実施されていますが、アウトカムへと昇華させていく段階で、 ・啓発情報を発信していく体制の確立 ・アウトカム評価に必要な事実指標の収集体制 の2つがあまり進んでいません。これらの体制が十分に整備されれば短期アウトカムの目標値は達成され则认为ます。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	電話相談員が年間 20 人増えているか	○	2021 年度は 24 名、2022 年度は 9 月時点で 9 名受講しており、年間 20 名ペースで増えており、事業の実施状況は適切であると考えます。
実施状況の適切性	自死遺族わかちあいの会の参加者が年間 30 人増えているか	△	自死遺族わかちあいの会の参加者は増加傾向にあり、2021 年度は初期値 40 名から 63 名となり 23 名増え、2022 年度も目標を達成するペースです。しかし、遺族の会スタッフの人員数がなかなか伸びず、アウトカム評価に必要なヒアリングも足りておりません。1 年毎に 30 名増やすという目標達成にこだわるよりも、「30 名増えた状態を維持する」ことを目標とし、スタッフ数を増やしたり、参加者へのヒアリング体制を強化したほうが活動自体の改善につながると考えています。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	休眠預金助成事業に関わる人員・時間は十分か	×	本助成金のことを内部に周知する機会が圧倒的に不足しており、早急に説明会を開催する必要があると感じています。
組織基盤強化・環境整備			

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・若い世代の人たちの中でも自殺問題への関心が高まってきていること。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

波及効果として、

- ・ 電話相談の応答率が上がる見込みです。
- ・ 当番状況が一人で電話を受けている状態から複数人で電話を受けている状態が増えるというふうに改善される見込みです。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>まずは休眠預金助成事業について団体内の全体にまで周知を行き届かせ、そして啓発情報の発信体制や事実指標の収集体制を早急に整備する必要があります。これらの状況を整えることで短期アウトカムを達成でき、事業が改善されると考えます。</p>

